

シリーズ「きょうだいの思い出」 35

『きょうだい②』

私が結婚してから子どもを授かるまでの間、ガイドヘルパーをしていたので、何人かの『お母さん』と話をすることがあった。

娘さんが知的障がいを持ち、きょうだいで兄がいる家庭があった。そのお母さんは、私の母と親交があったので、ずいぶん気さくに話が出来て『きょうだい』の部分も踏み込んで話が出来た。

その中で、私には忘れられない話がある。

きょうだいである息子さんは、障がいを持つ妹と義務教育を共に過ごしてきた。「息子が中学生の時に、同級生の女子から『おまえの妹はキチガイか!』と言われたと聞いた。息子は『相手が女子じゃなかったら、ぶん殴ってた』と、えらい怒ってた」と、お母さんが話してくれた。

「きょうだいは親と違って、物心ついた頃から色々辛い経験をしていると思う。息子が、妹のことで私に話してきたのは後にも先にもこの一回だけやった。よっぽど気持ちのやり場がなかったんやと思う」と話が続いた。「わかります」と返すのは軽すぎると思った私は、頷いて聴くしか出来なかった。

中学生の年齢は、当時の自分自身を振り返っても、圧倒的に女子の口攻撃が強い。もし私ならば「うるさい!」と言い返していたか、反撃できなくても親友に愚痴を吐いて、自分の心のバランスを立て直していたはずだ。そのお兄さんは、言える相手がお母さんしかいなかったのだろうと感じた。多感な中学生の年齢で、特に男子は自分をさらけ出して話せる相手、まして『障がいのあるきょうだいのこと』を話せる友達を持つのは難しかったと思う。

きょうだいで、男女の大差はないかも知れないが、前号で触れた男性のように『男性ゆえに、多くを語れない辛さやしんどさ』があり、自分に折り合いをつけたり鬱憤を発散するのは、女性の方が器用かも知れないな…と思う。特に、複雑な思春期が大半を占める10代の時期は。 つづく

前穂通信

まえほつうしん

発行日

2015年5月1日

発行元

自立センター前穂
〒569-1022
高槻市日吉台
1番町21-18
072-689-8600

洗面所改修報告

前穂事業所の洗面所の老朽化に伴い、洗面所、浴室の改修工事を行いました。洗面所及び、浴室の床、壁面を防水仕様のクッション材を張り、洗面化粧台を新設致しました。今後も皆様が過ごされる前穂の機能性、快適性の向上を図って参りたいと思います。

スタッフ日記



週末のシフト調整を担当させて頂いています竹谷康弘です。過去に水泳のインストラクターの仕事をしている際に、障がいをお持ちの方に接することがあり、とても楽しく、障がい者の純粋な笑顔に虜になり携わりたいと思い、福祉の仕事に就きました。自分自身運動することがとても大好きで前穂での『運動プログラム』の担当もしております。趣味は旅行で、年に一回海外旅行に行ったり、国内旅行も好きで行っています。最近は何に恵まれているなと感じ感謝している日々です。これからも宜しくお願い致します。